2010

平成 22 年3月発行

社団法人日本山岳会千葉支部

千葉支部だより

J・A・C

（第 10 号）

発行者　篠崎仁

編集者　結城純一

香取市で「伊能図」の講演会　200年前の日本を旅する

日本山岳会茨城支部長で元国土地理院院長、日本測量協会副会長の星埜由尚さんの講演「伊能忠敬の見た日本の景観」が１月２４日、香取市の佐原中央公民館で開かれ、１００人近い参加者が郷土の偉人の話に聴き入った。

講演会は千葉支部と香取市が共催。宇井成一市長が「忠敬翁は偉大な郷土のかがみ。文化と歴史のある佐原だけに、忠敬翁の足跡をたどることはそのまま香取市の生い立ちにつながる」とあいさつした。

星埜さんは「忠敬さんの伊能図は、科学的・統一的・系統的に実測されたわが国初の日本地図であり、天文観測を行い、わが国の位置を地球上に位置づけた初めての地図でもある」とし、伊能図について「江戸時代後期の日本の自然・社会を描いた国土の記録で、これを読み解くと200年前の日本景観の一端を知ることができる」と話した。

講演後、千葉支部の参加者たちは地元の有志の案内で伊能忠敬記念館や江戸情緒が残る小野川沿いの町並みを見学。その後、利根川水運とともに早場米地帯として栄えた江戸の当時から「飯の大盛り」で知られた食堂「桶松」で懇親会を開き、ここでも顔を見せた宇井市長や田山市議会議長、地元の谷田部県議会議員や地元有志らと楽しいひとときを過ごした。

講演会は講師の星埜さんが伊能忠敬研究会の代表ということで、香取市の全面的な協力で実現した。　（三木　雄三）

元清澄山忘年山行

期日：２００９年１２月１３日
参加者
三木雄三、櫻田直克、小沢けい子、岩尾富士夫、篠崎仁、津田麗子、豊倉さと子、南井英弘、芳賀孝郎、芳賀淳子、諏訪吉春、高橋正彦、山口文嗣、吉永英明，坂上光恵、渡邉信一、石岡慎介、宇津木仁典、高橋啄子、金子有美子、能美勝博、吉野聡、石井健雄、田代貴征、長澤克治、深山拓巳、廣田和、村山健太、　　以上２８人

千葉駅三越前にて集合してバスに乗り込み７時４５分に出発、車内では三木さんの名調子のガイドにて、千葉県の事が良く分かりました。段々と房総の山懐に入って行き金山湖を通り過ぎて暫くすると、水を満々と溜め込んだ保台ダム湖が見えてきました。

１０時に登山口に着き、身づくろいをし、準備体操してからいよいよ元清澄山に向けて出発した。メールで軽アイゼンがあったら持参するようにとあったのでどんな急登が待っているのだろうと不安な気持ちを抱えながらしばらく林道歩きをしていき、途中作業をしている人たちと会話をしていくと１０時４０分に大周遊コース入り口に着く。いよいよ急な登りが始まった。なだらかな林道を歩いてきたので足慣らしにはなっていたが、最初から息が切れてしまった私であった。

最初の急登では土が湿っていてまたその上に枯葉が覆い隠すほど道が見えず、何度もずるずるとすべってしまった。早くもロープが登場しそれにつかまってやっとの思いで登り､最初の尾根で少し休憩を取った。

さあこれからは尾根歩きだからラクラクと歩けるかなと期待しつつ次へのステップと歩を進めていく。しかし、千葉の山の尾根は木の根っこがゴロゴロと出ていて意外とあなどれない山歩きであると感じていたが、今回も次々とアップダウンを繰り返すことになった。

また、真ん中ほどで９０度近くの下りがあり、ロープを使って一人ひとり慎重に下りることになり、２０人の長い列で歩いていたが段々と間隔が開いてしまったところへますます開いてしまうことになった。それでもアップダウンの登り下りを繰り返す中で楽しくなってきた１２時５０分に山頂に到着して昼食休憩をした。途中道の駅で買ったお弁当、漬物がおいしかった。

１３時３０分にいよいよ下山する。たくさんの枯葉がある長い階段を慎重に一段一段下りることになった。何度もアップダウンを繰り返しながら下りていく間になんとも珍しい生き物の歩いた足跡が見られた。どうも推察するところ、これは、イノシシの歩いた跡ではないかと言うことになった。いのししは夜行性の動物なので日中では滅

多にお目にかかれないが夜には鳴き声と共にピカッと光る目をして走りまわっているだろうかと話題にしながら下る。

下りも長い距離を歩いたなあと思っていると、いつの間にやら夕闇が迫ってきていたところに金山ダム湖が見え隠れしてきた。この季節は夕暮れが速い為少し不安になってきたところでバスが見えてきたので安心しながら１６時１０分に金山ダムに到着し、直ぐにバスに乗り帰途に着いた。朝立ち寄った道の駅に再び立ち寄ってもらい買い物を楽しんだ。

今回の忘年山行はとても充実した山行になったことを感謝しつつ、有志と千葉駅近くの居酒屋でビールを乾杯し、二次会も盛り上がった会になった。

今回の山行でも感じたことではあったが、千葉の山は低山，丘と言えども侮れないと感じた。それなりに準備，日程などを考えていかなければならないと勉強になりました。

（小沢けい子）

第三回　三支部合同懇談会（栃木・茨城・千葉）に参加して

期日：2010年2月6日（土）～7日（日）
参加数：栃木支部13名　茨城支部19名　千葉支部21名　　計53名

三支部合同懇談会は、2007年に初めての首都圏支部として栃木、茨城、千葉の三支部が設立されたことを記念し、毎年同時期に開催している。今年は三回目、茨城支部が担当。

初日は元国土地理院長である星埜由尚茨城支部長のお世話で国土地理院の見学、翌日は筑波山登山コースを堪能した。参加者総数53名、うち千葉支部会員は21名だった。

６日　つくば市内に在る国土交通省国土地理院を見学、さすがに日本国土の測量を含めた全ての地理空間情報を整備・提供する施設である本院だけに、その広大さと付属設備の立派なことに驚いた。入口のホール正面の床には日本国土全体の地形図が描

かれ、3 次元の立体レンズを通して見ると山脈を立体的に浮き上がって見ることができ、今話題の 3 次元映画を想起した。茨城支部役員の皆さんが会場の受付にて出迎え、首から架ける名札を渡されビデオ上映室に案内。星埜茨城支部長の歓迎あいさつの後、ビデオにて国土地理院の役割と現状を茨城支部会員でもある基盤地図情報課長田中さんが懇切に説明して下さった。そのあと三班に分かれて、施設内外の様々な測量・気象の過去と現在の展示物を興味深く見ることができた。

バスにて、筑波山神社近くのホテル「一望」に到着後、道を隔てた露天風呂付き浴場に入ったが、ここでチョットしたハプニング。なぜか全員が戸外の露天風呂に移動しており、ぎっしりと芋を洗うがごとき状態、小生は仕方なく誰もいない内風呂にひとりで浸かっていると眼前に小さな浮遊物が…。さして気にも留めずにいたが、旅館の従業員 2 名が平謝りの態で、浴槽の湯を抜きブラシで床を洗い出した。どうやら、少し前に入浴した子供が余りの気持ち良さにウンチをお漏らした次第と判明。不思議なもので、そうと解ると特有な臭いが浴槽内に充満しているようで早々に退散。これも忘れられない旅の想い出と苦笑した次第。

懇談会は、星埜茨城支部長の歓迎あいさつ、日本山岳会神崎副会長の来賓祝辞、日下田栃木支部長、篠崎千葉支部長のあいさつと続き、さらに三支部事務局担当者による多彩な各支部年間行事実施報告があった。

筑波山名物「ガマの油売り口上」保存会の女性による実演等もあり楽しく歓談した。その後は、幹事部屋にて三支部の方々が集合し二次会を開催、多いに懇親を深めることができた。

7 日　翌朝、現地参加の坂上さんと小板橋さんが合流。筑波神社にて安全祈願の御祓いを受けお神酒を頂きロープウェイ組と登山組に分かれて筑波山頂を目指して出発。小板橋さんはすでに朝早く筑波山を一度登り降りしており、これが本日二度目の筑波登山、なんと昨日も一度登頂している由、その健脚ぶりに一同唖然。ファッショナブルな登山スタイルで決めている痩身の氏をあらためて見詰め直した。数日前の降雪の影響で五合目を超えたところから山道は氷結しており、用意周到な数名はアイゼンを装着。上り下りのケーブルカーに途中ですれ違いながら、約 2 時間かけて御幸ヶ原に到着。男体山に登りご本殿にお参りし、昼食は茶屋にて名物の筑波うどんを頂く、これが大変おいしかった。女体山の展望後下山となったが、山道の氷結によるスリップ事故を恐れ多くはケーブルカーで下山した。千葉支部会員 5 名を含め 26 名は白雲橋コースの下山路をとる。途中の大仏岩、北斗岩等の巨岩を見ながら無事ふもとの筑波神社に到着、ホテルにて全員が再会し帰途に着いた。

2011 年の三支部合同懇談会は、栃木支部が担当で 2 月 12～13 日に開催されます。いまからご予定下さい。

（諏訪吉春記）

房大山山行報告

期日：2010 年 3 月 6 日（土）
参加者：石岡慎介、岩尾富士夫、宇津木仁典、大浦陽子、小沢けい子、折田孝一、金子有美子、黒田征也、小比類巻尚美、櫻田直克、佐藤明夫、高橋正彦、高橋琢子、長澤克治、能美勝博、能美瑞穂、波木正司、芳賀孝郎、南井英弘、三木雄三、矢野賢二、山口文嗣、山崎完治、横田幸子、吉野聰、渡邉信一、以上 26 名

3 月 6 日に房総半島最南端の一等三角点の山、房大山に行ってきました。バスの定員の都合で参加希望者全員が乗りきれないため、キャンセル待ちがでるほどの人気の山行であった。

当日は朝から生憎の雨であったが、一人のキャンセルもなく千葉駅よりバスに乗り、登山口の館山市坂田（バンダと読む）へと向かう。坂田に着くころには雨も小降りとなり、海のそばのバス停で仕度を終え 11 時に一同張りきって歩き始める。

県道を渡り民宿の前から山道に入る。雨をたっぷりと吸い込んでツルツルの山道を滑ったり、尻もちを着いたり、ロープに掴まりながら約 1 時間で、房大山の山頂に到着する。房大山には一等三角点が設置されている。ここの三角点は変わっていて、ふつう三角点は四角い石柱（一等は 18cm 角、二等・三等は 12cm 角）の頭部に＋の刻印があるが、ここのは〇の刻印である。良く見ると〇の中に小さい＋がある。また通常は「三角点」等の字が彫ってある石柱の正面が南を向いているが、ここのは南東を向いている。

霧雨とガスのために視界はほとんどなく、時折遠くで霧笛が鳴っているのが聞こえる。

昼食休憩の後、最南端の分水嶺上のルートに乗り西へ進む。この頃から再び雨風が強くなり、下り気味の道と相まって前にも増してツルツルと滑りやすくなる。全員びしょ濡れ、足元だけでなく、人によってはお尻まで泥だらけになってしまう。暫く歩いて坂田に下る道と分かれ更に分水嶺上を進むと、藪が多く道形も細くなり迷いやすくなる。しかし三木さんが下見をし、要所に赤テープを付けておいてくれたお蔭で、迷わずに進むことができる。途中の尾根上には人工の穴が掘ってあったり、「陸」と彫られた石柱などがある。戦時中に東京湾に入る艦船の監視をしたり、着弾の監視をする部隊が駐留した跡だということである。最後に洲崎神社裏山の手前から左へ折れ、ジャングルのように密生した竹藪の中のか細い踏み跡を辿り、海沿いの西川名に出る。ストックのお花畑の脇を通り、房総フラワーラインに出て 10 分ほどで 14 時 10 分に安房の国一宮洲崎神社に到着、参拝後待機していたバスに乗り込む。

帰路はお楽しみのばん屋により、参加者一同再度親睦を深め、大いに楽しく過ごし、大雨にも拘わらず充実した山行でありました。

（山口　文嗣）

東京多摩支部設立

2010 年 2 月 20 日サンクレストホテル立川にて開催された東京多摩支部設立総会に参加してきた。多摩地区在住会員は 423 人居るが、内 202 人が新設支部に入会した。

総会は、尾上日本山岳会会長の祝辞のあと規約・事業計画・予算案が承認され、初代支部長には竹中彰氏が満場一致で選任された。事務局長は三渡忠臣氏、副支部長は酒井省二氏。私は昨年の設立準備委員会に出席したこともあり、祝いの言葉とともに首都圏支部の一員として今後連携を深め共同事業も企画したい旨述べてきた。

多摩支部事業計画としては、「東京都分境嶺踏査」が千葉支部の房総半島分水嶺踏査に通ずる企画として興味深かった。また広範な地域を持つ多摩支部が支部会員親睦のために一定の地域ごとに集会を開催する「サテライト・サロン地域集会」は有効な手段であると思われ今後参考にしたい。

（篠﨑仁）

房総の三つの大山

福田良著「房総山名考」（崙書房　1991 年）という本によると、房総には三つの大山があるという。この三つの大山にはそれぞれ一等、二等、三等の三角点が設置されている。さらにそのうちの二座は現在千葉支部で取組んでいる房総の分水嶺上にある。3 月 6 日の支部山行でそのうちの一つの房大山に行ったので、この機会に他の二つと合わせて紹介しておく。

一つ目の大山は房総の分水嶺上にあり 2 月 28 日に分水嶺の踏査で登頂した伊藤大山（245.7m、地形図大多喜）である。二等三角点が設置されていて、三つのうちで標高が一番高いが、里から奥まっているうえに、同じような標高の山が連なっているためかあまり目立たないし、有名でもない。点の記によると所在地は南麓の大多喜町紙敷字獄之下になっているが、点名はなぜか東麓の大多喜町横山の地名「横山」になっている。おまけに、大山の北にある横山の一集落の字名をとり俗称「伊藤大山」と注釈があり、地形図にも「伊藤大山」と表記されている。山頂まで林道が延びていて　、頂上にはテレビ局のアンテナが建っていて、その前に三角点が設置されている。伊藤大山の近くから棒杭（ぼんぎ）の集落にかけての分水嶺上に、江戸時代に大多喜と江戸を結んだ江戸道の一部がほぼ昔のままの原型を留めて残っている。

（伊藤大山の三角点）

二つ目は昨年５月１７日の記念山行で行った愛宕山からの帰途に寄った大山千枚田の近く、大山不動尊の裏のピーク（218.9m、地形図金束）である。地形図には三角点記

号の表記があるものの、山名は記載されていない。点の記によると点名「大山」という三等三角点である。地元では「長狭の大山」と呼ばれているという。同書によると大山不動は相模の大山と関連が強く、本尊も良弁僧正の作で、相模大山の不動様と同木同作と伝えられている、という。相模大山は神・仏・修験の共存する霊山で、特に修験の霊場として高い格式をもっているという。昨年の５月に行った時大山不動も神仏習合の寺であるとの説明を受けたのを思い出し納得した次第である。この時はピークまで登れなかったので、機会があれば是非三角点まで行ってみたいと思っている。

（大山不動尊）

三つ目は３月６日に支部山行が実施された房大山（193.6m、地形図館山）である。房大山は房総の分水嶺の最南端上にあり、一等三角点が設置されている。標高 200m にも満たず、三つのうちで一番低いのに一等三角点が置かれているのは何故かというと、二十万分一地勢図（横須賀、東京）を広げて見れば一目瞭然で、三角点網を完成させるためには、房総半島の先端に是非一等三角点を設置する必要があったと思われる。六地蔵、鹿野山とともに一等三角点の本点であり、一等三角点網図によると、房大山から鋸山、鹿野山、相模湾を挟んで見通せる丹沢山、伊豆天城山の万城岳の一等三角点を結んだ三角点網が形成されている。

点の記の表記は「房大山」であるが、地形図には単に「大山」と記されているだけである。同書によると地元では北麓の坂田（ばんだ）の地名をとり、「坂田の大山」と呼ばれているとある。不思議なことに同書には「房大山」という表現は一切載っていない。しかし最近ネットなどで検索するとほとんど房大山と呼称しているようで、どうやらそれは国土地理院が「点の記」をネットで公開しはじめた 2000 年代中頃以降そう呼ばれるようになったと思われる。同書が刊行された 1990 年代にはまだ坂田の大山が一般的なのではなかったかと思われる。なお点の記の表記は「房大山」で振り仮名は「ぼうのおおやま」となっている。山頂の手書きの看板「房の大山」の「の」は不要で、「ふさのおおやま」という呼び方も間違いである。登山者としては地元の呼び方を大切にしたいが、今後は房大山という呼称が一般的になっていくような気がする。

注：文中「地形図」とあるのは２万５千分一地形図のこと

「点の記」:映画劔岳点の記で有名になったが、基準点（三角点・水準点・基準多角点など）の設置・測量の記録のこと。

（山口　文嗣）

多摩森林科学園　サクラ保存林散策

ひと味かわった花見をします。ＪＲ高尾駅から徒歩 10 分の多摩森林科学園には、全国各地のサクラが 250 種類、1,700 本あります。今回はどのサクラが見頃でしょうか。初めて見るサクラも沢山あることと思います。園内では、花見酒無しで花を愛でます。先ず多摩御陵の静かな散策を楽しんだ後で、森林科学園へ向かいます。サクラをゆっくり見物したら、高尾の蕎麦で乾杯しましょう。

登山装備は不要。雨天決行、雨具、弁当持参のこと。科学園内で軽く昼食（駅前にコンビニ有り）。　休日はかなり混み合うのでウィークデイの企画としました。

期日：4 月 16 日（金）
集合：ＪＲ高尾駅前（京王高尾駅ではない）
　　10 時 35 分
担当：篠﨑　仁
　　津田麗子

2010 年通常総会開催のお知らせ

下記の通り第 3 回通常総会を開催いたします。この総会は、2009 年度決算、2010 年度事業計画及び収支予算などを審議いただく重要な総会です。追って詳しいご案内を差しあげることとしておりますが、今からご予定をお願いいたします。総会終了後、講演会並びに懇親会を予定しております。また翌日 16 日（日）は、支部設立 3 周年記念山行を企画しています。

日時：2010 年 5 月 15 日（土）　総　会：13 時 30 分～14 時 30 分
　　講演会：14 時 30 分～15 時、懇親会：15 時 10 分～17 時
会場：京葉銀行文化プラザ
　（昨年と同じ場所です。千葉市中央区富士見 1 丁目 3-2　Tel.043-202-0800）

千葉支部総会記念山行 三舟山（138．7m）

（展望台からの眺望）

三舟山　　君津市と富津市の境界にありなだらかな丘陵地帯にある山です。戦国時代北条氏が陣を張った古戦場です。山頂は広い平坦地で展望台やベンチもあります。北側から東京湾も見渡せます。また樹木が多くマテバシイ・桜・ミツバツツジなどが遊歩道沿いに植えられています。

日　　時　２０１０年5月１６日（日）
参加者　　自由参加
集合場所　ＪＲ君津駅改札
集合時間　午前１０時（ＪＲ千葉駅発８時４３分→ＪＲ君津駅着９時３３分）
コース　　ＪＲ君津→釜神橋→房総往還標識→分岐→記念林碑・石標の分岐→三舟山陣跡→三舟山展望台（帰路は同じコース）
徒歩時間　約３時間

雨天の場合は中止致します（当日千葉県の天気予報で雨の確立が５０％以上）

上高地散策（徳沢周辺）

千葉支部恒例の上高地散策です。今年は上高地周辺から足を延ばし徳沢へ…。
井上靖の小説「氷壁」のモデルになった宿「徳沢園」とその周辺の散策を楽しみましょう。

日　　時　２０１０年５月２１日（金）～２２日（土）
場　　所　上高地・徳沢
宿　　泊　ＪＡＣ上高地山岳研究所（山研）長野県松本市安曇野上高地　0263-95-2533
人　　員　２０名
申込締日　２０１０年４月３０日（金）
行動予定　上高地→明神→徳沢
歩行時間　約５時間（休憩時間含む）：歩行距離約１４ｋｍ
交　　通
●電車、バス
（行き）　JR 千葉駅発 6:38→JR 船橋駅発 6:53→JR 松本駅着 10：23→松本発 10：49 発→新島々駅着 11:19→新島々発 11:30→上高地バスターミナル着 12:35
（帰り）　上高地バスターミナル発14:00→新島々着15:05→新島々発15:25→松本着15:54→松本発 17:18→船橋着 20:37→千葉着 20:50
（往復）千葉発１８．２６０円、船橋発１７．６４０円（特急で自由席の場合）
　電車は行きＪＲ千葉駅発特急あずさ３号、帰りはＪＲ松本駅発特急あずさ３０号
●高速夜行バス
（行き）　新宿都庁バスターミナル発 23:00→上高地着 6：00
（帰り）　サロンバス　上高地バスターミナル 16:00→新宿都庁バスターミナル 21:00
（帰り）　スタンダード　上高地バスターミナル 14:00→新宿都庁バスターミナル 20:30
　　（往復）１７．０００円（サロンバス３列シート）片道８．５００円
　　（往復）１２．０００円（スタンダード４列シート）片道６．０００円
高速バスの場合はインターネットで「さわやか信州号」で検索しインターネットまたは電話・ファックスなどで購入できます。発売日は４月１日から販売です。
電車・高速バスの乗車券は各自で事前に購入して下さい。
２２日の昼食ですが未定なので決定しだい連絡いたします。

宿 泊 費　会員３．０００円、会員外４．０００円
雑　　費　２．５００円（宴会・朝食などその他）
申し込み先　櫻田　直克

●　編集後記
今回、三支部合同懇談会に小生の兄も茨城支部の会員として参加したので期せずして兄弟山行のよき想い出ができました。それにしても、茨城支部の皆さんには色々ご配慮いただき感謝、感謝の連続でした。　（諏訪吉春）